

概況(図1, 表1)

1月15~16日に千葉丸(317ト)で沿岸定線観測を行った。黒潮流路は遠州灘沖 33°40'Nを東進した後、神津島を通過し、房総沖を東北東へ流れ、流型はN型であった。房総沖の黒潮離岸距離は「平年並」であった。

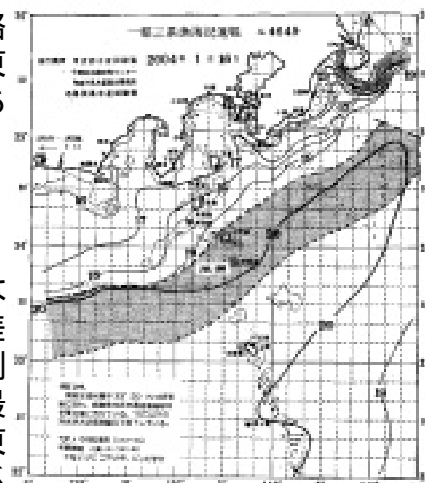


図1 一都三県漁海況速報

水温(表2, 図2・3・5)

海面では11~20, 100m深では11~20, 200m深では13~19であった。外房海域は「平年並」であったが、銚子・九十九里海域では「低め」~「やや低め」であった。平年偏差は、各観測層概ね負の偏差となり、特に犬吠埼周辺で偏差が大きかった。また、ミゾ場付近の観測点では、50・100m深の平年偏差がそれぞれ-3.5・-4.3であり、観測史上最低の水温を記録した。これらの冷水傾向は、黒潮が犬吠埼南東方から東へ流去していたことにより、隣接海域の鹿島灘・常磐海域にある親潮系水の影響を受けやすくなったことによると考えられる。

表1 房総沖の黒潮離岸距離(2004年1月)

基点	方向	距離(マイル)	階級
野島崎	南東	40	平年並
太東岬	南東	55	-
犬吠埼	南東	(40)	平年並

* (数字)は海防時報(海上保安庁海防部)より

表2 水温の評価(2004年1月)

水深(m)	外房海域			銚子・九十九里海域		
	水温	平年偏差	評価	水温	平年偏差	評価
0	17.7	0.1	平年並	15.3	-1.6	やや低め
50	17.24	-0.15	平年並	15.15	-2.49	低め
100	16.52	-0.38	平年並	13.35	-3.38	低め
200	13.71	-0.47	平年並	13.29	-1.29	やや低め

*水温は各海域の評価点の平均値

塩分(図4・5)

海面では33.8~34.9, 100m深では33.8~34.8, 200m深では34.5~34.8であった。銚子・九十九里海域では海面と100m深で33.8の低塩分が観測され、当海域は親潮系冷水の影響を受けていたと考えられる。

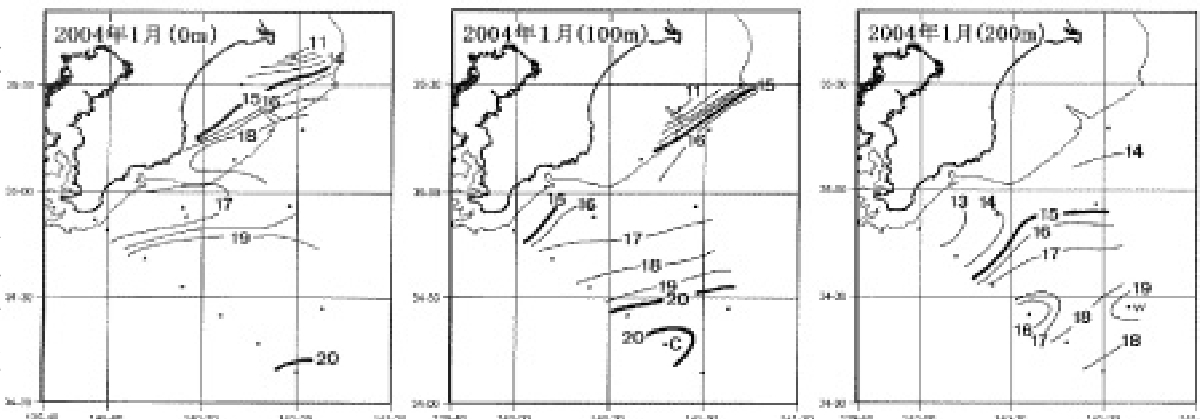


図2 水温の水平分布

流況(図6)

沖合域では2ノット以上の流れがみられた。太東岬南東方では黒潮が小さく蛇行し、黒潮内側反流とみられる2ノット前後の西向きの流れが観測された。

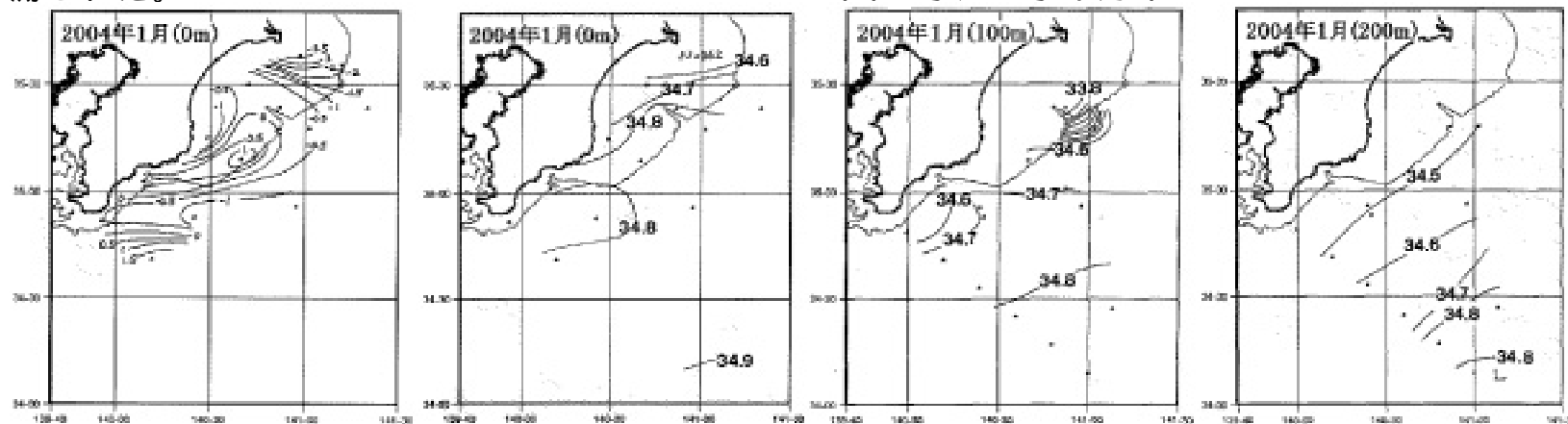


図3 水温の平年偏差

図4 塩分の水平分布

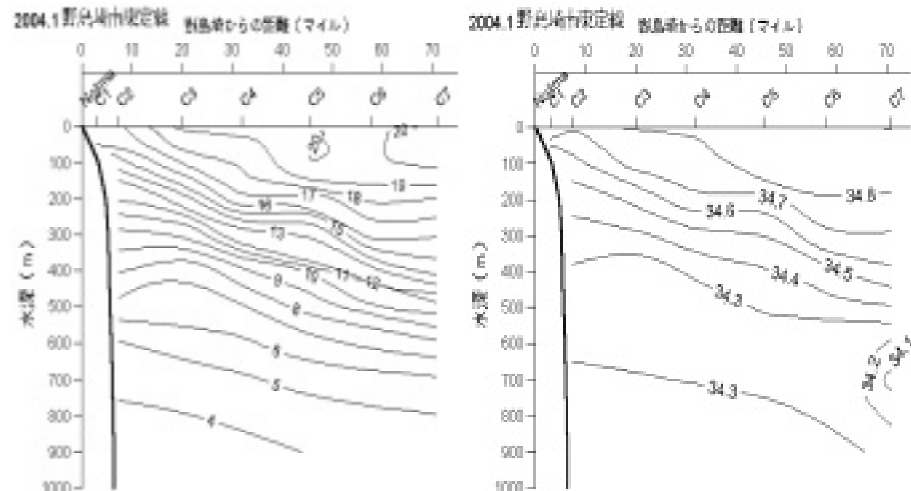


図5 水温と塩分の鉛直分布

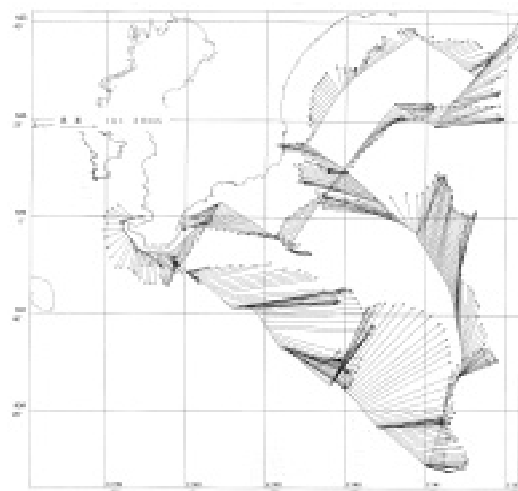


図6 流向流速(5m深)